当社工事による下水管損傷に係る影響調査の結果について

2026 年 10 月 8 日
東京電力パワーグリッド株式会社

＜調査の内容と結果＞

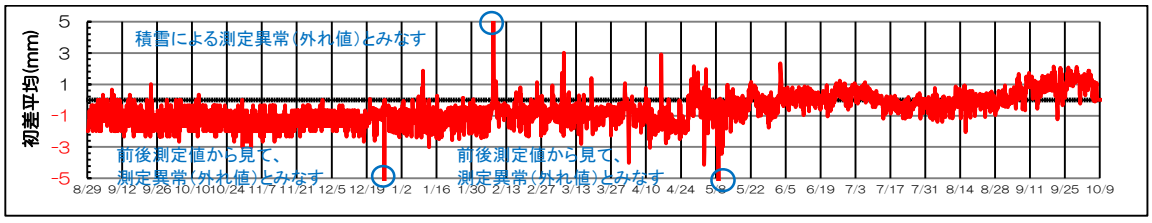
（１）路面の変状調査

損傷した流域下水管上部の道路 28 箇所に観測地点を設け、測量により道路面の高さを計測し、路面が沈下していないか 2 時間毎に観測中
※2025 年 12 月 18 日 9 時より、自動計測に移行しました。

＜結果＞現時点において、道路面の高さの変動（初期値との差）は僅かであり、計測開始からの全体を見ても下がり続ける傾向はなく、路面の沈下は確認されていません。

【観測地点のうち、東電シールド先端部に最も近いデータ】

初期値(2025 年 2 月 17 日計測)	TP(東京湾中等水位を基準とした地盤高さ)=92.227m
最新値(2026 年 10 月 8 日 7 時計測)	TP=92.228m
初期値との差	＋0.001m（+1mm）



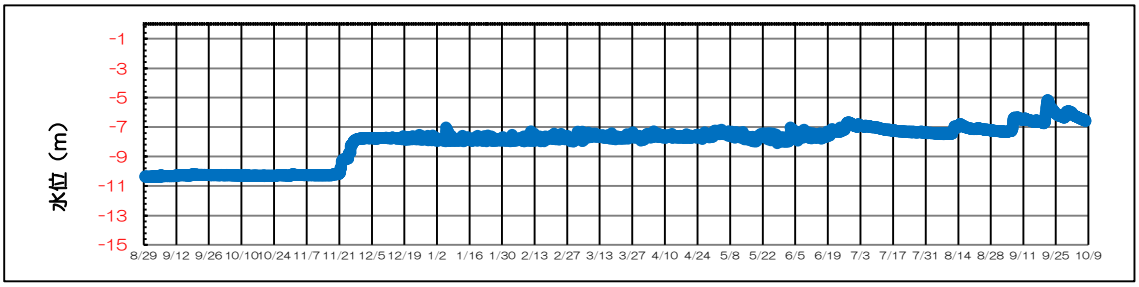
（２）地下水位の変動調査

損傷した流域下水管付近の 4 箇所に観測地点を設け、地下水位の高さを計測し、地下水が変動していないか 2 時間毎に観測中
※2025 年 12 月 18 日 9 時より、自動計測に移行しました。

＜結果＞地下水位の高さ（初期値との差）が約 3.8m 上昇したことを確認しました。これは損傷部からの地下水流入を防止する注入作業を実施した効果が現れたものです。

【観測地点のうち、東電シールド先端部に最も近いデータ】

初期値(2025 年 8 月 30 日計測)	道路表面から 10.38m 下部に水面を確認
最新値(2026 年 10 月 8 日 7 時計測)	道路表面から 6.61m 下部に水面を確認
初期値との差	+3.77m（+3770mm）



（３）路面下空洞調査

① レーダー探査※1 による路面下空洞調査を 1 ヶ月に 1 回実施中（実施日は毎回調整）

最新の調査は、10 月 5 日に実施いたしました。

※1 地中に電磁波を放射し、反射波を解析することにより地中の空洞の有無を調査する手法（降雨等で路面が濡れている場合、実施できません）
調査範囲：地表面から深さ約 2m まで

＜結果＞現時点において、空洞は生じていないと判断しています。

② 表面波探査※2 による路面下空洞調査を 1 ヶ月に 1 回実施中（実施日は毎回調整）

最新の調査は、10 月 5 日に実施いたしました。

※2 路面をハンマーで打撃し、地盤に発生する衝撃の周波数により空洞につながる地盤の緩みの有無を調査する手法
調査範囲：地表面から深さ約 12m まで

＜結果＞現時点において、空洞につながる地盤の緩みは生じていないと判断しています。

（４）下水管内流量調査

損傷した下水管の上流側および下流側のマンホール内部に設置した流量計により、下水管内の流量を常時観測し、1 ヶ月に 1 回データ回収を実施中

最新のデータ回収は、10 月 4 日分まで実施いたしました。

＜結果＞上流側・下流側で連動した流量の時間変動の確認結果や、下水管内部カメラ点検等の結果も含め、総合的に見ると下水の外部への流出はなく、流水は確保されているものと判断しています。

（５）下水管内部カメラ点検

損傷した下水管内をカメラにより常時撮影しており、1 ヶ月に 1 回点検記録を残しています。

最新の点検を 10 月 7 日に実施いたしました。

＜結果＞撮影した写真・動画を確認した結果、下水管内の水位および損傷状況の変化、懸濁した地下水の流入や土砂の流入は確認されておりません。

以　上

下水管内部カメラ点検結果
（10 月 7 日調査時のカメラ映像）

2025 年 9 月 2 日の調査（神奈川県に実施していただいた緊急点検時）と比較し、下水管内の水位および損傷状況の変化は確認されておりません。